



黒いキツネをみましたか？

村上隆広

斜里町市街地にあらわれたジウジギツネ (2016年6月)

黒いキツネがあらわれた

キツネといえば、「赤い…」というコマーシャルがありました。英語でも "Red Fox (赤いキツネ)" といいます。実際には赤というよりもオレンジ色に近いです。ところが、去年の初夏に、斜里町の市街地で黒いキツネが目撃されました。私も姿を見かけました。真っ黒というわけではありませんが、顔が黒っぽく、体にも黒い毛がもっとも多くみられます。新聞に取り上げられ、町民の間で一時話題となりました。

この黒いキツネはジウジギツネといいます。ほかのキツネと同じ種なのですが、遺伝的に違う毛色をしているのです。背中を上から見ると十字状の黒い線となることが多く、「ジウジギツネ」とよばれます。

ジウジギツネはどこから来た？

実はジウジギツネよりもずっと黒いキツネや銀色のキツネもいます。ジウジギツネはこれら黒や銀色のキツネとオレンジ色のキツネとが交雑した子孫です。このようなさまざまな毛色のキツネは、どこから来たのでしょうか？


一つ考えられるのは、毛皮のために養殖されていた個体です。昭和初期に内田清之助らが編纂した応用動物図鑑には、大正4年(1915年)からサハリン、北海道、青森で養狐場が次々に建てられたことが記されています。このときにカナダ産の個体が多く利用され、黒色や銀色、十字模様の狐も含まれていました。また、千島列島では野生下でもこれらの毛色の個体があり、きっと北海道内に

も持ち込まれたことでしょう。その後、養狐場から逃げた個体が野生化していったことは十分考えられます。

ただし、もともとキツネは体色に変異があり、自然でも上記の体色の個体が現れるそうです。知里幸恵のアイヌ神謡集にも「国の岬神の岬の上を見守る黒狐の神様」という一節があります。黒い狐はアイヌの人たちにとって神聖な存在とされていたようです。

今度、キツネを見かけたらぜひ体の色にも注目してください。

(村上隆広)



発行 2017年7月25日
発行所 知床博物館協力会
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257